

学校名 上尾市立富士見小学校
所在地 上尾市柏座四丁目3番8号
電話 048-771-0505

1 本校の概要

本校の図書館は校舎中央に位置し、2階吹き抜けて書架スペースが広い。PC室とも行き来でき、調べ学習の拠点として機能している。また、上尾市子ども読書活動支援センターが併設されている。朝読書、教職員やボランティアによる読み聞かせ、図書館イベント等多様な読書活動を進めている。

2 本校の実践

(1) 児童が利用したくなる図書館づくり

ア 図書委員会を中心としたイベントの開催

本校の児童が図書館を利用したくなるにはどのようにしたらよいか、図書委員会の児童で意見を出し合いこれまでに2つのイベントを行った。

①スイカでポイント…夏休み期間中に、来館して本を借りた児童にスイカ型のポイントカードを渡し、5ポイントたまると、2学期から使える2冊目貸出券になるようにした。ポイントをスイカの種の形にし、最後には特別スタンプを押した。

②おみくじパズル…パズルのピースを引くおみくじを作成した。パズルが完成し、クイズに解答すると、2冊目貸出券をもらえるようにした。パズルを完成させたいという思いから本を多く借りたり、何度も図書館に足を運んだりする児童が多く見られた。

イ 期間限定の図書館貸出

児童が図書を多く借りられるように「本を読も読もウィーク」を行った。図書館の本をその1週間だけは2冊借りられる。全校一斉に行くと人気の図書がなくなってしまうため、1週間ごとにずらして行うことで、借りたい本を借りられるようにした。この時期は図書館に行列ができるほど多くの児童が利用した。また、この週が終わってからどの図書が人気であったかを本と一緒に掲示し、継続した貸出しにつなげた。



(2) 行事や授業等と連携した図書館の貸出

ア 芸術鑑賞会とタイアップした面出し

芸術鑑賞会では、「アンデルセン童話」に関わるピアノ奏者を招いた。その際に、本校の図書館にアンデルセン童話を集めたブースを設けた。また、ピアノ奏者から楽譜とCDの寄贈があり、アンデルセンの童話と音楽を同時に楽しむことができるようになった。

イ 国語授業のポップを掲示

5年生「大造じいさんとがん」の物語文の学習で最後に椋鳩十の作品を紹介した。その際に、本のポップや表紙を作り、掲示した。本に付けて掲示することで、本を手にする児童が多く見られた。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

昨年度 14,475 冊、今年度 17,172 冊(12月20日時点)と昨年度より貸出冊数が増加した。計画的な図書の選定、図書館のイベントの開催、楽しく利用できる図書館づくりを学校図書館支援員と連携して取り組んだ成果である。また、図書館のイベントを定期的に行うことで、どの学年の児童も積極的に読書に取り組むことができた。

(2) 今後の課題

図書館の規模や児童数を考えると現在より多くの貸出しが見込めると考える。第65回学校読書調査(全国学校図書館協議会、毎日新聞社)によると、1か月の平均読書冊数は11,3冊と公表されている。本校全児童が、この平均読書冊数を読んだと仮定すると、約7,800冊になる。本校の児童の実態を踏まえ、図書館全体で1か月に5,000冊を目安とした貸出しを目指したい。

(3) おわりに

教師と学校図書館支援員、図書委員会が協力することによって図書館への来館者と貸出冊数が増えた。今後も、児童が図書館を活用できるように授業や行事等との連携、カリキュラム・マネジメントの意識をもち、年間計画を作成していく必要があると考える。